

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年 2月 5日

江別市立大麻東小学校

1 本年度の重点目標

「夢を持ち 自らを高め 他者と協働して未来を切り拓く子どもの育成」
 ～学び合い 認め合い 助け合う 東っ子～

1. かんがえ つたえあう子（知性を磨き表現する子）
2. おもいやりのある子（優しい心で協働できる子）
3. すこやかな子（自己実現に向けて心身を鍛える子）

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	子どもたち一人ひとりの自己肯定感や自己有用感が高まる教育活動を進めているか。	B	「子どもが主役の授業・行事・活動（対話・意見表明・主体的な企画等）」や成功体験を通じて自己肯定感・自己有用感の高まりを子どもたち自身が感じ取れるようにしていく。	B	A
	子ども一人ひとりのよさを生かすとともに、良好な人間関係の構築と集団のルールを大切にする学年・学級づくりを進めているか。	A	支持的風土のある学年・学級づくりを基盤に子どもたち一人ひとりの良さを認めていく指導に努めていくとともに、合同授業や授業交換、教科担任制等も活用し、複数の目で学年の子どもたちを見ていく体制づくりを進める。	A	A
	食育や体力づくりの活動を通して、健康なからだと心づくりを進めているか。	A	栄養教諭による「食に関する指導」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を活用した取組を継続する。	A	A

教育課程・学習指導	学力の定着を図るために、ICT を活用しながら授業づくりを進めているか。	B	校内研修のより一層の充実を図り、子どもたちの「話す力」「聞く力」を育てるとともに、ICT を有効活用し、活発に対話をする授業づくりに努める。	A	A
	家庭学習の習慣化や漢字・計算一斉テストの取組等を通じて、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる教育活動を進めているか。	A	「算トレ」「漢字・計算一斉テスト」による再テストや間違い直しを継続する活動を通じて基礎学力の定着を図るとともに、児童の発達段階に応じた家庭学習やタブレットのデジタルドリルを活用した家庭学習を進める。	A	A
	豊かな心を育むために、体験的な活動を生かした教育活動を進めているか。	A	出前授業や専門的知見を持った講師派遣事業、施設見学や体験学習、地域教材の積極的な活用などホンモノに触れる機会を大切にし、今後も継続していく。	A	A
生徒指導	子どもたちの悩みや問題に適切に関わりとともに、安心・安全を守る教育活動を進めているか。	A	「教育相談」「Web Q-U」等を通じて子どもたちの悩みに教師が敏感になるとともに、SC による「心の授業」等を通じて、自分から SOS を発信できる子どもたちを育てる。	A	A
	いじめ未然防止といじめ見逃し 0 に向けた取組を進めているか。	B	「なかよし集会」を通じていじめの未然防止に努めるとともにどんな小さいいじめも見逃さない姿勢のもと、市の SSW の協力も仰ぎながら学校全体で組織的で迅速な初期対応に努める。	A	A
	あいさつや言葉遣いなど、基本的な生活習慣が身に付く教育活動を進めているか。	B	特に挨拶は一朝一夕のうちに身に付くものではないので、小中一貫のリモート挨拶運動や児童会の全校挨拶運動といった企画とともに、日常的に教師の方から挨拶を継続していく。	A	A

小 中 一 貫 教 育	中学校進学に向けた期待感を高めるために小中一貫教育の取組を進めているか。	A	大麻東中学校区における「目標の共有化」「スタンダード」や小学生が「あんな中学生になりたい」と憧れるような小中の交流活動等これまでの充実した活動を継続していく。また、歴史の浅いこの活動については学校だよりによる情報発信をより積極的に進めていく必要がある。	A	A
特 別 支 援 教 育	子どもたち一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を進めているか。	A	特別支援コーディネーターを中心に、困り感のある児童・保護者との教育相談を積極的に進めるとともに、「個別の指導計画」による見通しを持った指導・評価を行いながら、支援を進めていく。また、学習サポート教員や特別支援教育支援員を活用し、一斉授業の中でも個に応じたきめ細かな指導を行う。	A	A
地 域 社 会 と の 連 携	保護者や地域の願いに耳を傾け、教育活動を進めているか。	A	「地域に開かれた学校」となるべく積極的な情報発信と「親子ふれあいコンサート」やPTA行事等の地域・保護者と繋がる場を大切にする。また「情報モラル教育」といった今日的課題に対しては学校・地域・保護者が連携して対応を進めていく。	A	A
	各種通信やホームページを活用し、情報発信を進めているか。	A	学校・学年・学級だより等の各種通信の発行とともにホームページの充実を積極的に行っていく。また、tetoru を活用した情報発信のデジタル化についてもインターネット上への転載や拡散のリスクが低い情報から順次進めていく。	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- 自己肯定感を高めるために、褒める指導を続けたり、学校行事等を通じて更なる成功体験を積みせたりしていく必要がある。
- 冬季間の外遊びをもっと奨励していくと良い。
- 基礎基本の積み重ねは大切であるが、子どもたち一人ひとりの実態に応じた学習を進めていく必要がある。
- 先生たちは子どもたちの悩みを聞く時間を取り、その後のフォローもしっかりしているので感謝している。
- 東小の先生方は来客者に対して明るい挨拶をしている。こういった「子どもたちが挨拶のできる環境づくり」を構築していくと子どもたちの挨拶にも繋がる。
- 小中の先生方の連携、先生方と地域の各機関との情報交換がよくできている。
- 大雪など緊急時に地域への情報発信を丁寧にしていく必要がある。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない